

### Ⅲ 文化芸術振興の基本的な考え方

文化芸術は、人々の心を養い、人生における生きる喜びや力、生活への潤いと豊かさを与えてくれるものです。また、私たちの生活において人と人をつなげる礎となるものであり、異なる歴史・文化を分かり合うことは国際理解を深め、多文化共生の出発点ともなるものです。

時代時代の中で、多くの人々が活動してきた新宿のまちには、まちの歴史を担ってきた文化や芸術があり、こうした新宿のまちの文化や芸術を未来に向けてつなげていくことが大切です。歴史や時間を縦軸とし、空間・地域を横軸として、新宿に住む人・活動する人の主体的な活動や連携を意識して、新宿のまちの多様な力を「新宿力」として結集し、そのふたをあけて、発揮することができるように、これからの新宿のまちと文化芸術振興について捉えていくことが必要です。

平成19年（2007）2月9日に閣議決定された国の「文化芸術の振興に関する基本的な方針」（第二次方針）の中でも、「文化芸術は、人間が人間らしく生きるための糧となるものであり、人間相互の連帯感を生み出し、共に生きる社会の基盤を形成するものである。」と述べています。そして、「このような文化芸術は、すべての国民が真にゆとりと潤いの実感できる心豊かな生活を実現していく上で不可欠なものであり、国民全体の社会的財産であるとともに、文化芸術の持つ、人々を引き付ける魅力や社会に与える影響力（すなわち「文化力」）で地域から日本を元気にする。」との考え方を示しています。

新宿区の基本構想・総合計画では「新宿力で創造する、やすらぎとにぎわいのあるまち」を20年後の「めざすまちの姿」として掲げ、まちづくりの基本目標の一つとして、多様なライフスタイルが交流し、「新宿らしさ」を創造していくまちを「文化芸術創造のまち 新宿」として捉え、その実現を目指しています。

新宿のまちは古くから今日に至るまで、多くの人たちが住み・働き・集う場として、多様な文化が育まれるとともに、それぞれの時代の中で新たな文化を創造してきたまちです。

そこには、自然や歴史、文化芸術や経済活動等を背景として、これまで新宿のまちが蓄積し、培ってきた豊かな地域の力があります。また、多様性・先端性を受容する都市としての懐の深さを背景とした新宿のまちに集まる多種多様な人の持つ無限に広がるエネルギーがあります。

こうした新宿のまちの持つ特性を活かしつつ、「新宿に住み・働き・集う、それぞれの人たちが、よりよく生き、元気がでる」ような様々な取り組みを進めていく指針として（仮称）文化芸術基本条例を制定し、これからの新宿区における文化芸術を振興していくことが大切です。

文化芸術振興基本法では、音楽、美術その他の芸術や、メディア芸術、伝統芸能や落語、歌謡等の芸能、茶道、華道、書道その他の生活に係わる文化等を文化芸術として捉えています。本懇談会では、こうした文化芸術振興基本法のいう文化芸術を基本に置き、新宿区の地域特性や文化芸術資源との関係を踏まえて、文化芸術について論じています。

また、文化芸術は、区民・文化芸術団体・企業・学校・区など、多様な文化芸術の担い手の活動により育まれていくものですが、新宿のまちの文化芸術を育てていくための担い手としては、新宿のまちに集う者、新宿のまちの文化芸術を支援する者等の存在が欠かせません。そのため、本懇談会では、新宿区基本構想・総合計画に掲げる「区民」（新宿区に住む人々はもとより、新宿区で働き、学び、活動する多くの人々）の概念を踏まえつつ、観客等として新宿のまちに集う者、新宿のまちの文化芸術を支援する者等を含めて、「区民等」として捉えて、検討を行っています。

## Ⅳ 文化芸術を振興する上での基本的な視点

文化芸術を振興していく上では、区民、文化芸術団体、学校、企業、新宿区等、文化芸術に携わる担い手がそれぞれ個性を十分に発揮して、自由に活発な文化芸術活動を展開できる枠組みを構築していくことが大切です。

そのため、「Ⅲ文化芸術振興の基本的な考え方」を踏まえて、次の4つの視点から、それぞれの主体が、今後の文化芸術の振興に取り組んでいくことが必要です。

### ◇持続性・継続性

持続的・継続的な取り組みとして、文化芸術を振興していける仕組みや枠組みを構築します。

### ◇自主性・独立性

文化芸術に係わるそれぞれの主体の自主性と独立性の下に、文化芸術が振興される枠組みを構築します。

### ◇時間軸・地域性

新宿の持つ歴史を未来に継承する視点や新宿の地域性を大切にしつつ、文化芸術が振興される枠組みを構築していきます。

### ◇連携・ネットワーク化

区民、文化芸術団体、学校、企業、財団、区等、文化芸術に関わる多様な主体の連携・ネットワーク化により、文化芸術が振興される枠組みを構築していきます。